

国語科学習指導案

日 時 令和元年5月31日（金）公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年A組34名
会 場 1C2A教室
授業者 鈴木 駿

1 単元名

メッセージをどう聞くか 校外学習エッセイ集を作ろう
～筆者の表現に学ぶ～

2 単元について

(1) 学習者観

2年生進級後には短歌を扱った学習において、短歌に表れている作者の心情をとらえるために、表現技法や特徴的な語句の使い方などといった鑑賞の観点を根拠にしながら鑑賞文を書く学習と、鑑賞の観点を生かした短歌の創作を行った。一つの短歌をめぐっても読み手によって多様な解釈ができることの楽しさを感じるとともに、表現技法を生かしながら限られた文字数の中でいかにして自分の思いを伝えるかという表現の学習を行い、相手に自分の伝えたいことを伝える難しさや喜びを実感している。

また、本校の第2学年の総合的な学習の時間では「他者から学ぶ」という目標のもと、全国でも数少ない山地酪農の実践者である吉塚公雄氏の講演会を行ったほか、7月には校外学習として第一次産業に従事する講師の方々のもとで2泊3日のスケジュールで体験学習を行う。そこでは実際に働いてみることはもちろんのこと、講師の方々をお招きして講演会なども行うことを予定している。

(2) 学習材観

中心学習材：『こころを動かす言葉』（加賀美幸子作）（幻冬舎文庫）

補助学習材：『メッセージをどう聞くか』（東京書籍 2年）

日本における随筆の始まりは清少納言の『枕草子』と言われている。日常の風景や出来事に対する筆者の鋭い感性を味わうことのできる文学的にも価値の高い作品として現代にも読み継がれている。随筆とエッセイは同義にとらえられがちであるが、歴史的に見れば『枕草子』をはじめとする日本文学における随筆は見聞・経験・感想などを特定の形式にとらわれず表現しているのに対し、エッセイは人間や自然についての明確な自己主張や批判を持つものであるという違いを持っている。『メッセージをどう聞くか』は筆者の取材をもとに読者へと訴えかける筆者の主張が込められている点でエッセイの要素を色濃く反映している学習材である。また、筆者の著書『こころを動かす言葉』では、聞くことの力について述べられている章がある。校外学習において講師の方々から「働くとは何か」を学んでくる生徒にとってはどうのようにして講師の方々からのメッセージを捉えるかを考えるための有益な学習材であると考えられる。本を全員で読みながら、筆者のものの見方や考え方に迫りつつ、どのように取材を行ってくるのかを考えるための題材としたい。

(3) 教科研究との関わり

本校国語科において育成すべき資質・能力を「ことばの力」と設定している。本単元において育成すべき「ことばの力」を以下の通り示す。

文章中に表れている筆者の考えを捉えることで、どのように取材を行えばよいのかを考える力

また、上記のような「ことばの力」を育成するために、以下の手立てを講じることとする。

① 言葉による見方・考え方を働かせる問題解決的な学びのプロセス

国語科における言葉による見方・考え方を働かせることは学習指導要領において「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」されており、国語科における学びとは国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深めることであると考え。本単元では、特に他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを深めることを目的としている。

“校外学習エッセイ集を作ろう”という単元は、二つの単元を合わせた一つの大きな単元として学習を進めていく。エッセイを読むことと、書くことの単元に分け、それを総合的な学習と絡める形で単元を構想した。

第一単元（本単元）は読むことの学習を中心に据えた単元である。第1次では校外学習エッセイ集を作成するという目的の自覚化と、筆者のものの見方や考え方が伝わってくる表現を本を読みながら探し出し、それをまとめ、筆者の考えを解き明かすことでエッセイの表現を学ぶという課題意識を持ちながら、エッセイとはどのような文章なのかについて学習する。第二次では『メッセージをどう聞くか』を読むことで筆者の考えをとらえながら、目的に応じて複数の情報を整理しながら筆者の考えに迫るための読み方を身につける。第三次においては自分が本を読んで理解したことや考えたことをもとにグループワークを行い、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、次単元につなげるために、筆者がどのようにして物事からメッセージを受け取っているのかという取材に対する姿勢についても考えさせたい。そして、第一単元で考えたメッセージを引き出すために必要なことを生かしながら校外学習で講師の方々を取材し、それを題材にエッセイを書いていく。第二単元では書くことの学習を中心に据えた学習を行う。最終的にはそれを各学級でエッセイ集にまとめ、校外学習でお世話になった講師の方々に読んでいただく。

② 国語科における学びの自覚化

OPPシートを用いて学びの自覚化を促したい。今回の単元では第一次においてエッセイという文章のスタイルを理解したうえで第二次で実際にエッセイを読み、筆者の経験と見聞からどのような感想が述べられているのかを確認することで、第一次の学びを生かしていく。そこでは読み取った筆者の考えについて振り返らせたい。さらに第三次では第二次までの学習を踏まえながら、より筆者の考えに迫るために本を個人ごとに読んでいく。読んでいく中で理解が深まった筆者の考えを振り返らせることで、学びの自覚化を図りたい。

③ 国語科における真正の学びの場の設定

第二単元でエッセイを書くという課題のもと、随筆のスタイルや表現に関することや文章に表れている筆者のものの見方や考え方について考えることはもちろん、学習者はどのようなことに気を付けながら講師の方々を観察し、話を聞くべきなのかという取材の姿勢までを考えることができるよう指導の展開を行う。エッセイのスタイルを学習し、学習者の日常生活を題材について実際にエッセイを書いてみることにとどまらず、どのようにしてエッセイの題材となる情報を集めるかといったところまで学習することで、日常生活や

社会生活の中から様々なものごとに意味や意義を感じることでできる感性を養うことができる。また、書いたエッセイはお世話になった講師の方々に読んでいただくこととすることで、国語科の学習でありがちな目的意識のない作文づくりから脱し、相手意識をもってエッセイを書くことができるようになると思う。

3 単元計画

(1) 育成を目指す資質・能力

【知識及び技能】

- ・ 事実と主張，情報と情報との関係について理解することができる。
- ・ 自分が得た情報を整理し，自分の思考を明確にすることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得ることで，筆者の考えを解釈することができる。
- ・ エッセイを読んで理解したことや考えたことをもとに，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【学びに向かう力，人間性等】

- ・ 文章に表れている筆者のものの見方や考え方をとらえ，自分の考えを広げたり深めたりしようとするすることができる。

(2) 指導目標

エッセイを読み，筆者の視点や価値観を捉えることで，自分の生き方やものの捉え方を広げたり深めたりさせる。

(3) 評価規準

【知識・理解】

- ① 事実と主張，情報と情報との関係について理解している（(2) —ア）
- ② 自分が得た情報を整理し，自分の思考を明確にしている。（(2) —イ）

【思考・判断・表現】

- ① 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得ることで，筆者の考えを解釈している。（C —イ）
- ② エッセイを読んで理解したことや考えたことをもとに，自分の考えを広げたり深めたりしている。（C —オ）

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 文章に表れている筆者のものの見方や考え方をとらえ，自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

(4) 指導計画及び評価計画

| 次 | 時 | 学習活動 | 評価の観点 | | | 見取りの観点 |
|---|---|-------------------------|-------|----|----|-------------|
| | | | 知技 | 態度 | 態度 | |
| | 0 | (1) 『こころを動かす言葉』を並行読書する。 | | | | |
| 一 | 1 | (1) 単元の見通しをもつ。 | ① | | | ① エッセイとレシピと |

| | | | | | | |
|---|---------|---|---|---|---|--|
| | | <p>(2) エッセイの特徴について考える。</p> <p>(3) エッセイとはどういう文章なのかまとめるとともに、自分の考えを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> エッセイと料理レシピの比較読みを行わせる。その上でエッセイには筆者の体験や感想が書かれていることに気づく。 | | | | <p>の書き方の違いを理解し、エッセイに表れている内容を捉えている。(OPPシート)</p> |
| 二 | 2 | <p>(1) 『ここを動かす言葉』の一節を読み、読み進めるうえでの観点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の視点や価値観に迫ることのできる叙述に着目する。 相手からどのようにメッセージを引き出すかについても考えていくことを確認する。 <p>(2) 前時に学習したエッセイのスタイルを意識しながら「メッセージをどう聞くか」を読み、筆者のものの見方や考え方と、その根拠を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の経験や見聞は何か、そこから導き出された感想は何かを考えながら読む。 筆者の考えが、経験や見聞から導き出されていること。 | ① | | | <p>① 筆者の考えと経験、見聞の関係について理解している。(学習シート)</p> |
| 三 | 3 | <p>(1) 『ここを動かす言葉』を読み、筆者の視点や価値観に迫る記述を個人で探し出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えが伝わってくる記述を付箋に書く。 書いた付箋は内容に従ってグルーピングを行う。 | ② | ① | | <p>② 自分が本を読むことで探し出した情報を整理するために、グループに分けている。(学習シート)</p> <p>① 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得ている。(OPPシート)</p> |
| | 4 本時 | <p>(1) 前時で学習したことをもとに、筆者のように他者からメッセージを受け取るために必要なことは何か、考える。</p> <p>② 他者とのコミュニケーションを通じて考えの形成を図る。</p> <p>③ 今後自分が様々な物事からどのようにメッセージを受け取っていきたいかを書く。その際、具体的な場面を想像する。</p> <p>(2) 本時の学習を振り返る。</p> <p>(3) 単元後の学習の見通しをもつ。</p> | | ② | ① | <p>② 筆者の叙述を根拠に、交流を通して自分自身の考えを広げたり深めたりしている。(学習シート)</p> <p>① 筆者の叙述を根拠に、交流を通して自分自身の考えを広げたり深めたりしようとしている。(OPPシート・学習シート)</p> |

| | | |
|------------------|---|---|
| 第 二 単 元 | 0 | 校外学習で、講師の方々を観察したり、講演を聞いたり、インタビューを行ったりする。(取材) |
| | 1 | (1) 個人での取材をもとに、エッセイを書く。 ○ 前単元で学習した内容を振り返りながらエッセイを書くために必要な要素を確認する。 |
| | 2 | (1) それぞれが書いたエッセイを読みあう。 (2) お互いに気づいたことを交流する。 (3) 推敲を行う。 |
| | 3 | (1) 完成したエッセイをエッセイ集にまとめる。 (2) 作品の交流を行う。 (3) 単元の振り返りを行う。 ・ エッセイを書くために必要なこと ・ 日常生活や社会生活に生きるものの見方や考え方 ○ 単元を振り返らせ、身についた力を確認させる。 ○ 単元を振り返らせながら、他の随筆作品への興味を持たせる。 |
| | 4 | ・ 日常生活や社会生活から考えたことを文章で表現する。 ・ 話を聞く上で気を付けるべきことを自覚しながら生活を送る。 |

4 本時について

(1) 指導目標

筆者の記述を根拠にして、筆者のようにメッセージを受け取るために必要なことは何か考えさせることで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。

(2) 評価規準

【思考・判断・表現】

- ② エッセイを読んで理解したことや考えたことをもとに、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C-オ)。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 文章に表れている筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

(3) 授業の構想

これまでに生徒はエッセイとレシピの比較読みを通してエッセイとは筆者の経験や見聞を題材に、筆者の感想をも交えて記している文章であることを学び、物語文や説明的文章とは異なった文章であるということを押さえ、エッセイを読む際には筆者の経験や見聞(=事実)と感想や主張を区別しながら読む必要があることを学習した。加えて、『メッセージをどう聞くか』を読み、筆者の経験は何か、そして筆者の主張は何かを捉えている。また、「私たちの暮らしにはメッセージがあふれている。テレビや書物、人の言葉、自然の様子、出来事、その他、世の中に存在する全ての事や物には、メッセージがあるはずだ。」という本文中の記述に着目させ、筆者がどのような課題意識で全ての物事や人物からメッセージを受け取ってきたのか、どのような生き方をしていきたいのかをより考えさせるために、筆者の著書である『こころを動かす言葉』を読み、そのヒントとなる記述を個人で探してきた。本時は、探してきたヒントをもとにグループや学級で交流を図りながら筆者の思いに迫るとともに、生徒自身が7月の総合的な学習の時間に行う校

外学習においてどのような態度で講師の方々から学んでくるか、取材に対する考えを深めることを目的とした授業である。筆者が考えるメッセージを受け取るために必要なことは大きく分けて3つあり、(自分自身の生き方に関わること)(注目する視点に関わること)(聞き方、話し方に関わること)と分類できる。これらの観点を自覚化させ、今後に生かす態度を養う。

導入では、これまでの学習を振り返るとともに、学習課題の確認と、『メッセージをどう聞くか』における筆者の主張を確認し、今までの自分自身のメッセージの受け取りかたがどうであったかを振り返らせ、本時の見通しをもつ。

展開の前半では、学習課題の解決に向けたグループワークを行っていくことを確認する。グループワークでは筆者がどのようにメッセージを受け取ってきたのかを考えることで、自分のメッセージの受け取り方に反映させたい。

展開の後半では、グループで交流した意見を学級で共有していく。ここでは生徒に発表を促しながら、(自分自身の生き方に関わること)(注目する視点に関わること)(聞き方、話し方に関わること)という筆者の考え方の観点を皆で共有したい。そして、これらの観点はどれか一つでも欠けてはいけない観点であるという考え方に生徒が至るように働きかけていく。

終結では、これからどうメッセージを受け取っていくのかを考えさせたい。そして、校外学習後にはそれを題材として校外学習エッセイ集を作ることを確認し、今後の実践意欲を掻き立てたい。

(4) 本時の展開

| 段階 | 学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等 | 時間 (分) | ■指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価 |
|----|--|-----------|--|
| 導入 | 1. 前時までの学習を振り返る。 2. 『メッセージをどう聞くか』における筆者の考えを再確認する。 私たちの暮らしにはメッセージがあふれている。テレビや書物、人の言葉、自然の様子、出来事、その他、世の中に存在する全ての事や物には、メッセージがあるはずだ。 5. 本時の学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。 | 5 | ・今まで『ころを動かす言葉』を読んできて得られた考えを述べさ |
| 展開 | 【学習課題】 筆者のようにメッセージを受け取るために必要な考え方は何だろう。 3. 自分がメッセージを受け取るうえで最も大切なことは何かを考える。 4. グループで自分が最も大切だと思ったことを交流する。 【話し合いを深める助言】 ・グループの人の考えを比較し、違いを明確にしてみよう。 ・グループの人の考えに順位をつけてみよう。 ・他に大切だと思うことはないか、考えてみよう。 | 37 | ・司会者を中心に話し合いを進めさせる。 ・筆者の叙述を踏まえながら話し合いを行わせる。 ・なぜそう思うのか、その根拠も含めて話をさせる。 |

| | | |
|----------------|---|---|
| | <p>【最も大切だと思うことの考えの例】</p> <p>(自分自身の生き方に関わること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人の言葉を大事に聞けるということは、他人のことを大事に思える「心の余裕」を持たなければならない。 ・生きていることの幸せを感じると、自分のことだけでなく他人のことも思うことができ、他人の言葉も聞き取れるようになる。 <p>(注目する視点に関わること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごく当たり前の風景なのに、季節や時間、捉え方によって改めて目を見張らせ、輝く一瞬がある。 ・静かに、でも生き生きと暮らしている人々の様子から多くのメッセージが聞こえてくる。 <p>(聞き方、話し方に関わること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちらの言葉が多過ぎて相手から充分話が聞き取れない。言葉が少なすぎても相手に届かず、やはり折角の話が聞けない。 ・心に届き、相手が爽やかになる話し方を求めたいものである。 <p>5. グループで話し合い、共感した他の人の考えを学級で交流する。</p> <p>【メッセージを受け取るために必要な考え方の捉えの例】</p> <pre> graph TD A[物事や人からのメッセージ] --> B[注目する視点はどうか] C[聞き方・話し方] --> B B --> D[欠かせないもの] </pre> | <p>○見方・考え方を働かせる手立て 筆者の叙述をもとに考えているか</p> <p>他者とのコミュニケーションを通じて考えの形成を図っているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを伝え合い、他の意見を聞くことで考えを広げる目的でグループワークを行う。 <p>・発表させながら、教師がその考え方をグルーピングをしていき、学習者の思考を整理する。</p> |
| <p>終 結</p> | <p>8. 交流したことをもとに、個人でこれからどのようにメッセージを受け取りたいかを考える。</p> <p>9. 本時の学習を振り返る。</p> <p>10. 今後の学習の見通しをもつ。</p> | <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後自分が様々な物事からどのようにメッセージを受け取っていきたいかを書かせる。その際、具体的な場面を想像させる。 |

5 参考文献

- ・ 加賀美幸子 (2006) 『こころを動かす言葉』 幻冬舎文庫
- ・ 田近洵一／井上尚美 (2013) 『国語教育指導用語辞典』 第4版 教育出版